



学習室で児童に継承

災害の記憶

美川町南桑地区にある河内神社の石垣。180センチを超す高さに「台風14号最高水位」と書かれた板が取り付けてある。甚大な被害が出た2005

年9月の同台風の怖さを伝え残そうと、住民グループが町内12カ所に設置した表示板の一つだ。9月6日に同町を襲った14号に伴う豪雨で錦川



美川小前の国道187号



表示板

が氾濫し、172戸が床上浸水するなどした。錦川の支流が合流する美川町はそれまでもたびたび水害が起きたが、あれだけの被害は初めて。とにかく一気に水位があがってきた。当時町長だった田中英雄さん(76)は振り返る。田中さんたち水害を経験した住民が力を入れるのが、次代を担う子どもたちが災害の記憶を継承することだ。河内神社の目の前にある美川小には防災学習室があり、田中さんは住民から集めた水害時の写真などを寄贈した。住民が出前授業で講演することもある。「自分の命を守るためにはどんな情報に耳を傾け、何を基準に判断すればいいのか。子どもたちにはきちんとしていきたい」と田中

さん。全国各地で相次ぐ災害を踏まえ、防災力こそが地域存続の鍵だと訴える。



田中さんを中心に地域の方に提供いただいた資料を見ている児童たち

中国新聞
平成30年11月10日(土)より
(写真は新聞のものとは異なります。)